

「土木広報大賞 2018」応募用紙

| |
|--|
| 団体名：国土交通省 関東地方整備局 八ッ場ダム工事事務所 |
| 土木広報活動または作品名：やんばツアーズ |
| 広報活動または作品の概要 <p>首都圏で唯一の建設中ダムである八ッ場ダム（H31 年度完成予定）建設事業のあらゆる場面を地元の新たな観光資源と捉え、フルに活用して地域経済の活性化を目指すため、多くの人に現場に来てもらう仕組みづくりを実施。具体的には、平成 29 年 4 月から、「“いまだけ”」「“ここだけ”」「“あなただけ”」をキャッチフレーズに「日本一のインフラ観光ツアー」八ッ場ダム観光プロジェクト“やんばツアーズ”を開始するなどの取組みを展開。また、積極的な情報発信によりファン層の裾野拡大、リピーターを確保しながら、ダム事業への理解促進に加え、迫力あるダム建設現場を間近で体感することで建設現場の魅力を PR。さらに、ダム完成以降を見据えた地域振興のため、ダムを基軸とした観光地域づくり、地域が儲かる仕組みづくりを実施（官主導から地域主導へ）。</p> <p>1. “やんばツアーズ”の概要</p> <ul style="list-style-type: none">① 地域の魅力を紹介する地元在住のガイド「やんばコンシェルジュ」が、現場をわかりやすく説明！② 見学者の目的及び時期に応じた 10 本の見学プラン（個人向け 5 本、団体向け 5 本）を用意 予約不要の“ぷらっとやんば”の開催、各種団体ツアー（一般、土木技術者、インバウンド等）、ナイトツアー、季節限定ツアー（ホテル鑑賞、紅葉、クリスマス等）、ファン倶楽部の設置、「将来の建設業の担い手確保」に向けた取組み（土木系学生、小中学校教育プログラム）③ 団体ツアー参加者に模型作成・メモリーストーン等の体験記念や、ダムカード・八基石等の特典進呈④ 土日祝の見学会開催など見学プランを増やすことで、ダム見学の受入れ人数を 10 倍に増強⑤ 全国の鉄道・バス会社、旅行会社、学校、さらには地元観光地との連携強化を行い、ダム建設工事の現場見学に民間ツアーの受け入れを実施 <p>2. いつでも、誰でも工事現場が見られる無料の展望台「やんば見放台」の設置（H27.9 設置）</p> <p>3. 長野原町・跡見学園女子大の産官学連携、及び官と地元との連携</p> <p>4. SNS やホームページ、Youtube 等のツールを活用した情報発信の積極的な運用</p> |
| 広報活動の効果 <p>1.“やんばツアーズ”には、1 年で約 2 万 9 千人(対前年度約 10 倍)の方々が参加。近隣の草津温泉等の観光地と組み合わせるなどの民間ツアーも新たに生まれ、さらには地域住民の協力等により地域内連携の機会が創出し、ダムカード提示による割引サービスなどの取組みも生まれた。八ッ場ダムを応援してくれるファン倶楽部の会員数は約 400 人（H30.3 末時点）</p> <p>2.やんば見放台の来訪者が約 2 年半でのべ 30 万人を突破するほどの人気スポットに！来るたびに化する現場光景がリピーターを生んだ。（来訪者の推移 H27 年度：約 4 万人※、H28 年度：約 8 万人、H29 年度：16 万人）※ H27 年度は 9 月から集計</p> <p>3.水没予定の川原湯温泉の若き担い手と女子大生、町役場、国土交通省が長野原町の未来に向け団結することによりダム見学会の改良、商品開発などのプロジェクトが始動した。また、地域住民が主体となる“チームやんば”が結成され、ダムを観光資源とした地元主催の活性化イベントも実施された。</p> <p>4.YouTube 閲覧数（3 本合計 11,325）、フォロワー1046 人、いいね 856（H30.6.25 時点）</p> <p>5.“ぷらっとやんば”が、全国ダム愛好家でつくる日本ダムアワード選考委員会が主催する日本ダムアワード“2017 イベント賞”を受賞（H30.3.18 ダム建設現場にて受賞式）</p> |

| | |
|---------|-----------------------------|
| | |
| 付属資料の提出 | ■あり・□なし（どちらかに印（■）を付けてください。） |